公益財団法人 小児医学研究振興財団

2022年4月1日

子どもの尊厳の危機に際して



第126回日本小児科学会学術集会会頭に就任して



順天堂大学大学院医学研究科 小児思春期発達·病態学 第126回日本小児科学会学術集会会頭

清水 俊明

-Globalな視点で子どもたちの未来を考える-

第126回日本小児科学会学術集会の会頭を仰せつかりました、順天堂大学大学院医学研究科小児思春期発達・病態学教授の清水俊明です。日本小児科学会学術集会は、日本を6ブロックに分けて開催地区が決定されますが、2023年は関東ブロックが6年ぶりに担当することになり、関東地区代議員会のご推薦をいただき第126回学術集会の会頭に就任致しました。

COVID-19の影響により世界中で人々の日常生活が激変しているなか、社会的弱者でもある子どもたちの環境も大きく変化しているのが事実です。ワクチンや治療薬など保健や医療に関わることは勿論、教育や運動、食事、心の問題さらには虐待に至るまで、日本小児科学会として取り組むべき問題は枚挙にいとまがありません。また今回のSARS-CoV-2の感染拡大によって、感染対策を含め様々な情報共有を諸外国と適切に行っていくことの重要性も再認識されました。そのような状況において、既に日本小児科学

会におけるグローバルな活動は以前から多数行われているわけですが、コロナ禍を経験したうえで今回改めて「Globalな視点で子どもたちの未来を考える」というメインテーマを掲げさせていただきました。我が国における小児医療を中心とした種々の問題を国際的視野に立って議論し、海外の演者の方々にも議論にご参加いただければと思っております。

会期は2023年4月14日(金)から16日(日)の3日間で、会場は品川のグランドプリンスホテルとしておりますが、ハイブリッド開催となる予定です。ポスターを含め「虹」を基調に多様性にも言及して参りたいと考えております。会場にいらっしゃれなくてもWebでご参加いただけることになると思いますので、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

令和3年度 研究助成金交付対象者 選考結果一覧表

		慶應義塾大学医学部	小児遺伝性疾患のゲノム・エピゲノム異常を含めた全変異種の
山田茉未子		慶應我登入子区子市 臨床遺伝学センター 助教	同時検出法の開発:ネルソン・プロジェクト
吉見	昭秀	国立研究開発法人 国立がん研究センター研究所 独立ユニット長	小児がん検体を用いたDeorphanizationと新規がん治療法の開発
坂野	公彦	奈良県立医科大学 生理学第二講座 講師	マルチオミックス解析を用いたアミノアシルtRNA合成酵素異常症の 病態解明
渡邉	裕介	国立循環器病研究センター、研究所 室長	左心室筋分化からみる先天性心疾患発症および重症化機構の理解
被嶋	有紀	島根大学医学部 准教授	GH-IGF系シグナル蛋白遺伝子変異が関与する成長障害の病態解明
杉本	哲	京都府立医科大学附属 北部医療センター小児科 医長	エリスロポエチンの抗肥満・抗糖尿病作用の機序解明
② ア	サヒグルー	-プ食品研究助成金(乳幼児栄養に関する研究	費助成)(Asahi Group Foods (Wakodo) Grants for child nutrition
武内	俊樹	慶應義塾大学医学部 小児科 専任講師	ミトコンドリア機能異常症における至適栄養摂取のためのバイオマーカー 探索研究 -治療可能代謝疾患の個別化医療に向けて-
永原	敬子	昭和大学医学部 小児科学講座 講師	日本人小児における皮膚終末糖化産物(AGEs)の基準値の設定と、 乳幼児期の栄養が小児期の皮膚AGE値に及ぼす影響
③ 小	児の社会	医学的研究(疫学・統計含む)(Research	Grants for Social Pediatrics)
西山	将広	神戸大学医学部附属病院 講師	学力および非認知能力に影響を与える乳幼児期因子の解明
龍川	諒子	早稲田大学文学研究科 博士後期課程2年·研究助手	出生体重が初経年齢に及ぼす影響: ストレス応答性を考慮した疫学調査研究
山岡	祐衣	東京医科歯科大学 プロジェクト助教	自治体における虐待予防としての養育支援訪問事業の質的研究
加藤	秀一	名古屋大学医学部附属病院 親と子どもの心療科 助教	小児を対象とした精神疾患診断のためのコンピュータ式半構造化面接 KSADS-COMP日本語版の開発
④ 学	校健診・診り	療情報データベース利用による研究助成金(A Gran	nt for School Health Record/ Electronic Medical Record Database Study)
三浦	慎也	東京女子医科大学 集中治療科小児手中治療部 准講師	市中発症小児敗血症性ショックの疫学調査 -実情に基づいた小児救急医療体制の提唱に向けて-
福屋	吉史	東邦大学医学部 精神神経医学講座 後期研修医	診療情報および学校健診情報データベースを用いた児童思春期の 神経性やせ症に関連する要因の検証
⑤ 海	外留学フ	ェローシップ【小医科領域全般に関する研究	/u]
冨永显	頂太郎	新潟大学大学院 医歯学総合研究科	免疫細胞を含む新規腸管オルガノイドを用いた 小児難治性炎症性腸疾患の病態
吉年	俊文	① 琉球大学大学院医学研究科 臨床研究教育管理学講座 客員研究員 ② 沖縄県立中部病院 小児科·医員	小児消化器肝臓疾患に対するサルコペニアの現状と 小児サルコペニアに対するレジスタンス運動の有用性



神戸大学大学院 医学研究科 内科系講座 小児科学

山村 智彦

昨年夏に大学近くの公園でpizza partyをした際の写真(左端が筆者)

私は令和元年度小児医学研究振興財団の海外留学フェローシップのご援助の下、2021年1月より英国のマンチェスター大学に設置されているWellcome Trust Centre for Cell-Matrix Researchに研究留学をさせていただいております。

私の所属しているRachel Lennon LabはAlport症候群をはじめとした様々な腎疾患について、特に細胞外マトリクスに焦点を当てた研究を行っている研究室です。現在私は、Alport症候群のモデルマウスを利用して疾患進行に伴う腎臓の変化をRNAシークエンシングやプロテオミクスなど様々な解析法を用いて捉え、その重症化機序の詳細な解明することに加え、新たな治療ターゲットを同定することを目標として研究を行っています。私の渡航直後より英国全体がSARS-CoV-2の流行により厳しいロックダウンに突入してしまったこともあり、本格的な実験の開始に遅れが出るなどなかなか思うように

令和3年度 海外留学フェローシップ・優秀論文アワード 選考結果



海外留学フェローシップ(小児科領域全般)

富永 顕太郎 新潟大学医歯学総合病院医歯学総合研究科・シンシナティ小児病院

現在、私は、シンシナティ小児病院のJames Wells研究室で基礎研究に従事しております。Wells研究室は、iPSCを用いた消化管全般のオルガノイド(三次元組織構造体)の作製に世界に先駆けて成功し、多くの卓越した業績を上げております。本研究では、免疫細胞を含む新規腸管オルガノイドを確立し、遺伝的素因を持つ小児IBD患者の病気の発生をモデル化し、遺伝子変異が疾患進行に与える影響を解明することを目指しております。この度の貴財団からのご支援に感謝し、引き続き研究に励んで参ります。



海外留学フェローシップ(小児科領域全般)

吉年 俊文 琉球大学大学院医学研究科臨床研究教育管理学講座 沖縄県立中部病院小児科

この度は栄誉ある「海外留学フェローシップ助成」を受賞し、身に余る光栄であり、御礼申し上げます。今回、トロント小児病院(SickKids)でclinical gastroenterology fellowとして3年間小児診療に従事しながら研究に携わる機会を得ました。私の研究テーマは慢性消化器・肝臓疾患を有する小児患者のサルコペニア/フレイルの現状を調査し、リハ栄養で病状を改善できるように介入を行う臨床研究です。この留学を通じて同僚となる国外の臨床医・研究者と日本の小児科医を繋げるハブとなり、将来の日本の小児科診療発展に寄与したいと考えます。



小児医学研究振興財団アワード 和文誌

小山 朝美 京都大学大学院医学研究科人間健康科学科

この度は大変名誉な賞に選出いただき誠にありがとうございます。受賞論文は私が在学中に行った研究活動等をまとめ、初めて書いた論文であり共著の先生方に多くの御指導を賜り完成したものです。これまで行ってきた事が形になり、更に素晴らしい賞をいただけて大変嬉しいです。私は既に修士課程を卒業し現在は治験コーディネーターとして働いております。活動分野は変わりましたが、今後も日本や世界の医療発展に貢献できるよう精一杯努めてまいります。



小児医学研究振興財団アワード 欧文誌

西野 智彦 帝京大学医学部附属病院小児科学講座

この度は、身に余るこのような高名な賞を頂き、感謝と共に非常に身の引き締まる思いです。本受賞論文は、前職である 埼玉県立小児医療センターにおける検討で、多くの患児と保護者、先生方にご理解とご協力を頂きました。ここに全て の方に深謝申し上げます。今後も、本論文を踏まえた研究を継続して行うことで、多くの患児に貢献したいと考えてお ります。ありがとうございました。



福山幸夫アワード

小坂 拓也 福井大学医学部小児科/福井大学医学部附属病院子どものこころ診療部

この度は、名誉ある賞を頂き、身に余る思いです。本論文では、定型発達児と比較して自閉スペクトラム症児において入 眠後の体動が有意に多く、さらに自閉スペクトラム症児の入眠後の体動が前庭覚、口腔感覚の低閾値(感覚過敏、感覚回 避)と相関していた結果を報告しました。論文作成にあたり、ご指導頂きました大嶋勇成先生、友田明美先生、川谷正男 先生をはじめ、ご協力頂いた先生方に心より感謝を申し上げます。



福山幸夫アワード

井上 大嗣 長崎県立こども医療福祉センター

この度は、このような名誉ある賞をいただき誠にありがとうございます。親子入院は、患児と保護者が一緒に入院して 短期集中リハビリテーションに取り組むことを目的とした入院形態です。本論文は親子入院の特徴を活かした治療プログラムの一例として報告しました。親子入院は当センターの療法士が中心となって取り組んでおり、この受賞を励みに今後も多職種で連携しながら、こども達のために精進して参りたいと思います。

計画が進んでいないのが現状ですが、こちらの滞在中にはなんとか研究を形にして良いご報告ができるように引き続き精進して参ります。

こちらの研究室は主宰者であるProf. Rachel Lennonを筆頭に女性の比率が多く(大学院生含めおよそ7割が女性研究者)、フランス、ドイツ、中国、ブラジルなど世界各国から研究者が集まっているため、留学当初はこれまで自分が過ごしてきた環境とのあまりの違いに戸惑う場面も多かったのが正直なところです。ただし、メンバーは皆親切であり、留学当初に英語でのコミュニケーションに苦戦していた(今でもかもしれませんが)私にも丁寧に指導をしてくれ、ようやく自分のペースで研究ができるようになってきています。

私生活についてですが、マンチェスターの街は英国内でも移民が多い地域ということもあって、はるばる日本からやってきた我々家族も 非常に快適に暮らせております。子どもたちは現地の小学校に通い始 めてまもなく1年が経ちますが、出国時には全く喋れなかった英語がみるみる上達し、最近では宿題の面倒を見るのも本当に大変です。さらに、子ども同士で話している英語が聞き取れない場面もちらほら出てくるようになってきており、日々その成長に驚かされています。また、週末や休日を大切にする英国人に倣い、私も仕事以外の時間はできるだけ家族とともに過ごし、近隣の観光地などにも積極的に足を伸ばすようにしています。

最後になりますが、本財団の海外留学フェローシップにご援助いた だくことで非常に貴重な体験ができていること、本当に有り難く感じ ております。今後も小児医学研究がますます発展することを祈念し私 の報告とさせていただきます。 研究助成分

① 小児医学領域全般に関する研究費助成 (Research Grants for Pediatrics) 総額700万円 1件200万円以内

② アサヒグループ食品研究助成金(乳幼児栄養に関する研究費助成) (Asahi Group Foods (Wakodo) Grants for child nutrition) 総額100万円 2件程度

③ 小児の社会医学的研究(疫学・統計含む) (Research Grants for Social Pediatrics) 総額300万円 1件100万円以内 **奨学金**

- ① 小児医学領域全般に関する研究 総額350万円
- ② 子どもの心の問題に関する研究 1件150万円

アワード 優秀論文

日本小児科学会、 日本小児神経学会、 日本小児精神神経学会 及び 日本小児心身医学会 機関誌に掲載された原著論文のうち、

優秀論文の筆頭著者を褒賞。



※応募要項は財団ホームページにて6月頃掲載予定です。

替助会員(個人)

※敬称略 五十音順

赤司 俊二 宇理須厚雄 加藤 有一 佐伯 進一 旭 壮一郎 江口 尚彦 加藤 陽子 嵯峨 六雄 規夫 芦田 明 隆 門脇 弘子 酒井 衞藤 義勝 安次嶺 馨 衞藤 金子 一成 酒井 康成 芳郎 寬 遠藤 文夫 加納 坂本 由美 雄一 佐久間弘子 足立 小穴 慎二 鴨下 和子 熱田 裕 老田 礼子 河 敬世 櫻井 嘉彦 鮎沢 衛 尾内 ШП 浩史 佐々木 望 一信 義夫 大賀 正一 川又はるみ 椎谷佐由里 新垣 洋二 大川 荒川 浩一 油崎 晋 四方あかね 正 大久保美登里 貴田岡節子 重松 陽介 有賀 大澤真木子 柴田瑠美子 一誠 北中 幸子 飯島 知子 家原 大嶋 勇成 北本 育子 嶋田 泉司 五十嵐 隆 大蘭 恵一 俊明 木野 稔 清水 石井アケミ 太田 和秀 木村 宏 下条 直樹 石井 尚吾 太田 秀臣 降 下村 国寿 日下 石井 正浩 大塚 晨 楠田 聡 白井 真美 石倉 健司 大西 正純 楠原 浩一 白石裕比湖 石﨑 朝世 大野 耕策 工藤 協志 白川 嘉継 位田 忍 大守 伊織 久保 政勝 末延 聡一 孔明 壽康 窪田 田田 湍 杉浦 井田 ו 博幸 井田 岡田 賢 倉辻 忠俊 杉本 圭相 純一 繁夫 岡田 杉本 蕗子 旦 衜 市田 久和 伊津見 梓 勤 桑原 尚志 杉本 緒方 悦朗 賢 鈴木英太郎 伊藤 郡 建男 岡本 伊藤 小川 俊一 小池 健一 孝 鈴木 伊藤 末志 沖 潤一 敏雄 小泉 晶-鈴木 学 伊藤 進 小口 小泉ひろみ 鈴木 康之 伊藤 辰夫 奥山真紀子 河野 幸治 憲治 須田 煜— 須磨崎 伊藤 保彦 小栗 絢子 河野 伊藤 雄平 小坂 佳紀 幸山 洋子 清野 仁 稲垣 治 小田 蕬 神山 潤 閗 秀俊 由子 小田切美知子 関口進一郎 稲垣 児玉 浩子 井原 小野 靖彦 後藤 彰子 健_ 瀬島 斉 幸子 香美 敦子 俊夫 井原 祥二 後藤 高島 今井 賀川 治美 後藤 雄一 協 秀人 高橋 今泉 益栄 河西 紀昭 小林 繁 高橋 孝雄 今村 正夫 孝 小林 高橋 加治 正行 觔 今村 俊彦 勝部 康弘 小山 典久 尚人 高橋 岩田 敏 加藤 剛二 小山 佳紀 滝沢 琢己 岩田 力 加藤 達夫 犀川 大 滝田 順子 均 岩元 二郎 賀藤 齋藤 和由 宅見 徹 則夫 誠 内田 正志 加藤 齋藤 伸治 竹内 斎藤 内田 祐子 加藤 正彦 博久 竹重 博子

泰弘 竹島 健 竹谷 武知 哲久 竹広 茂子 田島 剛 雅弥 橘 田中 篤 玉井 浩 田村 正徳 千田 勝一 和彦 長 秀男 长 明子 塚田 辻 章志 續 晶子 堤 裕幸 鶴澤 正仁 手塚 正雄 デュフ ラ尚子 寺井 勝 寺門 道之 寺田 春郎 去本 貴英 照井 君典 遠山 拓郎 一方 創 外木 秀文 富沢 修一 永井 崇雄 永尾 尚子 長澤 克俊 永島 哲郎 中坪 希美 中西 浩一 中野 貴司 中畑 龍俊 中原 智子 中村 公俊 成田 雅美 難波 節行 新津 直樹 西久保敏也 西澤嘉四郎

新田 康郎 堀米 仁志 根来 民子 前川 喜平 橋口 玲子 前多 治雄 橋本 和廣 前田 美穂 長谷川俊史 前野 泰樹 長谷川奉延 正木 拓朗 長谷川茉莉 松井 智子 長谷川美香 宣武 松尾 長谷川行洋 松尾 雅文 羽田野爲夫 松尾 宗明 松平 服部 元史 隆光 馬場 常嘉 松原 知代 濱田 洋通 真部 淳 早川依里子 丸山 剛志 原 寿郎 丸山 輝久 張田 三池 曹 波呂久美子 三浦健一郎 日暮 追 修紀 水谷 平尾 敬男 水野 克己 平山 雅浩 南 志保子 廣瀬 伸一 南沢 享 廣津 卓夫 三牧 正和 宮尾 隆治 晃代 深澤 福重淳一郎 宮城 雅也 藤井 達哉 宮島 祐 藤枝 幹也 宮代 英吉 藤岡 雅司 麦島 秀雄 藤木 伴男 村上 巧啓 藤田 弘子 村瀬 雄二 藤村 匠 村田 要一 藤脇 建久 本村知華子 二村 真秀 元山 福祥 哲夫 船戸 正久 森 船曳 森内 浩幸 哲典 舟本 仁一 森尾 友宏 平家 俊男 直彦 森口 秀子 別所 文雄 森下 利貞 逸見 睦心 守田 保坂シゲリ 森田 友明 星加美恵子 成武 浩 保科 弘毅 森脇 信一 細井 創 八木 光亮 安木 大地 細矢 堀川 玲子 安田 寬二

柳川 幸重 山内 穣滋 秀雄 山山 崇倫 山形 山川 毅 敬幸 山岸 山口 清次 山下 薫 山下裕史朗 山下 亮子 山城雄一郎 恭聖 IIIII 恒一 111野 圭子 山本 山本 威久 玉路 山本

山脇 英範 横田俊一郎 横田 俊平 横谷 進 横山 茂 義正 横山 吉川 哲史 吉田 康子 吉田ゆかり 吉原 重美 研自 脇口 宏 和子 和田 信雄 渡邊 渡辺 博 礼 渡部

賛助会員(法人)

アサヒグループ食品株式会社 エーザイ株式会社 Story of the tortoise株式会社 第一三共株式会社 株式会社ナチュラルサイエンス Meiji Seika ファルマ株式会社 医療社団法人 メディカル・プロ

協賛企業

アサヒグループ食品株式会社 アステラス製薬株式会社 株式会社オグラ JCRファーマ株式会社 大日本住友製薬株式会社 武田薬品工業株式会社 中外製薬株式会社 日本マクドナルド株マ株式会社 ノボノルディスクァーマ株式会社 ファイザー株式会社 マルホ株式会社 リアルワールドデータ株式会社

寄付者

加我 牧子/吉川 武志

賛助会費は、所得税控除または 税額控除を受けられます。

個人 1口/年 10,000円 法人 1口/年100,000円

ご入会・会員のご所属先変更などのご連絡は、下記で承っております。





公益財団法人 小児医学研究振興財団 JAPAN FOUNDATION FOR PEDIATRIC RESEARCH

〒110-0015 東京都台東区東上野3-32-2 廣瀬ビル4B TEL (03) 5818-2601/FAX (03) 5818-2602 e-mail:shouni-iken@jfpedres.or.jp/ http://www.jfpedres.or.jp/

「早どし:5の世紀 | について-

News Letter題字の「子どもたちの世紀」は、日本小児科学会が創立 百周年を迎えた当時の厚生大臣であられた小泉純一郎先生に揮毫を お願いしてご快諾頂き、総理大臣ご在任中にお書きいただいたものです。



滋

西卷

新型コロナウイルス感染症の流行による生活上の制限が子どもにも長期にわたり続いています。様々な出会いや気づきを子どもから奪う危険な事態です。一方、ウクライナでは多くの子どもが戦争の犠牲になっています。子どもの尊厳を守る行動が小児医療従事者にも求められています。

(常務理事 五十嵐 隆)